成年後見制度の見直しについて国の議論が始まっています

新聞記事で目にした方もおられると思いますが、今年２月１５日の法制審議会で、後見制度の見直しの議論が始まりました。主な検討内容は

・期間を限定して利用できるものにする（やめることができる）
・後見人の交代を柔軟にできるようにする
・後見人の代理権を限定的なものにする（判断能力に応じ代理権を制限する）等

とされています。２０２６年度にかけ、改正の議論が行われます。

今後の勉強会などの予定

５月１５日（水）10：30～12：00　グループホームの暮らし

障害がある人の住まいのひとつグループホームについて、サービスの内容、生活の様子、費用などについてお伝えします　参加費 500 円

５月１８日（土）10：00～11：30　これからの備え　介護保険の話

退院しても自宅に帰れない場合､介護保険をどう使うか学びませんか　参加費 500 円

５月２４日（金）13：30～16：00　後見入門講座

事例をたくさん用意し、後見制度は「こういう時、こう役に立つ」という切り口でわかりやすくお伝えします　参加費 1000 円

６月１９日（水）10：00～12：00　「あび隊」による障害理解とコミュニケーションのワークショップ

互いの意思が伝わらない体験を通して、相手を思いやることやコミュニケーションについて学びませんか？　参加費 500 円

いずれも当法人研修室で行います。正会員の方はすべて無料です。

発行元

特定非営利活動法人　心の絆ネットワーク
広島市中区八丁堀６－１１
TEL　082-221-8606　FAX　082-224-5032
メール　info@cocoronokizuna.jp

心の絆ネットワーク

心の絆ネットワークからのお知らせ

令和６年5月

ごあいさつ

理事長　兒玉　宏

少しずつ暑くなってきましたが、みなさまお元気にお過ごしのことと思います。

コロナ禍も終わりを告げ、社会生活も一段落しておりますが、やはりその他の感染症の心配は付きまとっております。今まで通りの注意は払った方が良いのかもしれません。

ところで、私たち心の絆ネットワークにおきましては昨年後半から新しい試みとして、各界の専門家の方たちや、当方の専門家によるセミナーや後見入門講座等を実施してまいりました。大勢の皆様のご参加を頂き、企画を進めてよかったと思っております。ご参加いただいた皆様からは新しいニーズの把握やご要望等を頂き、これからの事業活動への参考にすることができました。また企画の中で、現在問題化している事案や、社会の変化による制度の不備等を感じることもできました。

これからも、皆さま方との直接間接の対話を通じて、ますます複雑化しわかりにくくなる様々な事案への適切な対応に努めてまいる思いです。皆様とご一緒に絆を感じる事業活動を進めてまいります。

障害のある子とその親のための「親なきあと」講演会をおこないました

２月２８日、大阪から鹿野佐代子さんを迎え、講演会を行いました。平日にも関わらず約 100 名の方が参加されました。鹿野さんの明るくパワフル話しぶりで、ともすれば不安で深刻な内容を前向きにとらえることができました。子どもにお金をいくら残したらいいかの問いに「ゼロでも大丈夫！」、生活していくのにはいくら必要か事例を提示され、将来お金が不足するのかどうか知っておくことが必要と言われました。そのうえで親自身の人生を楽しみながら備えるべきことは備えましょうと締めくくられました。

後見入門講座をおこなっています

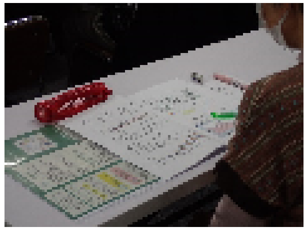
NPO 法人心の絆ネットワークが 2011 年９月に創設されて以来 12 年が経過し、今年で 13 年目に入ります。市民後見人(候補者)養成講座は、2019 年 10 月第 10 期を最後に新型コロナ感染症の影響で開催できませんでした。

この間、本会では講座の修了生に呼びかけ、コロナ禍での困りごと相談や電話での見守り活動を行いながら会員の皆様との関係をつないできました。また、親なき後相談室やセミナーを開催して新たな参加者との出会いも生まれました。2023 年５月、やっと感染症もインフルエンザ並みの 5 類に移行し、本会でも講座の再開をすることになりました。

しかし「後見制度」の利用対象者は年々増えているにもかかわらず、実際の利用件数は伸び悩み、国は制度自体の見直しを図り、利用促進法を制定する事態になっています。なぜ「後見制度」の利用が進まないのか、制度自体に課題がある一方、現行の「後見制度」を自分自身の立場(自分事)に当てはめて考えること自体が難しく、理解しにくいのではないか？と、私たちは考えました。そこで利用する立場で企画したのが、今回の「後見入門講座」です。

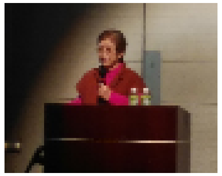
今の世の中でなぜ「後見支援活動」が必要とされるのか、自分の生活環境や家族(人間)関係を想定しながら、実際にこの制度を<u>利用する前</u>と、<u>利用した後</u>では、どのように生活が変わったのかを具体事例を通して学ぶ講座にしました。

テキストも本会で作成し、講師による一方通行の講義方式ではなく、双方向で受講者とやり取りをし、わからないところがあればそこで話を止め何が分からないかを確認していきました。３時間の入門講座は、同じ内容でこれまでに 4 回開催、36 名の参加がありました。このうち 1 回は、修了生の一人が市民後見活動を広めようと NPO 法人光を立ち上げた三原市で開催しました。



この入門講座では、「後見支援活動」の必要性を理解して新たに会員になる方をはじめ、他の本会の講座にも参加されるきっかけとなり、その場を通して参加者同士のつながりも生まれています。今年度は、また同じ内容であちこちの団体やグループ、地域でも少人数での「後見入門講座」（出前講座）を開催したいと思っています。これまで受講された方々がさらに身近な方に声掛けをしてくださり、より活用が進めばと思っています。

春日キスヨさんの講演会「人生 100 年時代の現実と備え」を行いました



昨年１１月２２日、春日キスヨさんの講演会を行いました。

春日さんは日頃から「人生 100 年時代にはピンピンコロリは難しく、ヨロヨロドタリしながら生きていくので備えましょう」と言われています。考えたくないからなりゆきに任せることになってしまいます。今回は「なぜそうなってしまうのだろう？」と問題提起されました。家制度では長男が家督を継ぎ、親の面倒も見ました。現代の高齢者は「核家族」の世代で夫婦が「愛情中心」「子ども中心」、子どもにも進学や就職の時「親のことは考えなくてもいいからね」と言ってきた方も多いでしょう。そのため高齢になっても子どもの世話にはなりにくい、誰に頼るのか、意思決定を誰にゆだねるか迷うということになるようです。

超長寿期の晩年は

・人の世話にならざるを得ないと考えよう
・人の世話になることを負い目や恥と考えない
・自分でできることはやりできないことは人に頼む
・人とのつながりを大事にする

そのうえで長寿期はどこで、どのように生きたいか考えましょう。家族がいる人は、何か起きたときのことを日頃から話し合っておきましょうという内容でした。

参加者は７０代の女性が多く、「考えさせられた」「何か備えをしなくては」「どうしたらいいのか分からない」という感想を聞きました。

これからの備え　連続セミナー

春日キスヨさんの講演会を踏まえ、毎月１回ずつ色々なテーマで連続して行っています。終活や健康維持も大切ですが、世の中の制度や仕組みを一緒に学んで備えましょう。

第５回は、５月１８日（土）10：00～11：30
介護保険の話（退院後に自宅に帰れない場合）です。
参加費 500 円、正会員は無料、６月以降も継続予定です。

第３回介護予防セミナー（３月）では、座学だけでなく実際に体を動かして、たくさん笑って楽しみました。